

国語 古典発展学習

～「和歌の世界」「おくのほそ道」から『古典作品』紹介へ～

中3年A～D組

実践者 菊地圭子

学校図書館司書 中村誠子

ア. 単元の構想

(ア) 子どもの実態 (3年:男子70名・女子72名・合計142名)

今年度から担当した3年生である。1年生から国語の学年毎に担当教諭が替わっており、年度当初は学習形態の変化について戸惑う子どももいたが、現在は意欲的に取り組んでいる。意見の交流も活発に行っており、批判的に読むことができる子どももいる。基礎知識や既習事項に対して十分な蓄積が見られず、自信を持って授業中発言することが難しい子どもも一部にいる。素直に授業に取り組もうという姿勢が見られるので、今後の授業の中で繰り返し学習することで自信を持たせていきたいと考えた。「読み」の観点からみると、詳細な分析を好む一方で、全体的な作品としての読み、読みの交流の部分が3年生にしては十分ではない面が見られる。コロナ禍で子ども間の交流が長く制限されている側面もあれば、子どもたち自身の特性もあるので、今回の授業の中で「交流」「共有」を重視した。また、発表学習として中学2年生で『好きな漢詩を発表しよう』という授業実践を経験しており、今回の授業の導入期に自分たちの過去の作品を共有し、語り合いながら、イメージを膨らませている場面が見られた。本実践への期待値は高い反面、上手くいくかわからない、どのようにまとまるか不安だという側面も見られた。また前回の実践では個人の作品作りとなったので、班で一つの作品を作ることへの消極的な意見も見られた。今回の実践では、グループで一つの作品を作ることで、情報を共有し思考を深め広げながら、前向きに取り組む姿勢を大切にしたい。そのために、情報を精査しながら確かなスキルを身に付けて、メディア・リテラシーを意識した授業実践を試みた。単なる調べ学習ではなく、そこに「主体的で対話的で深い学び」が存在し、子どもたちの内在するさまざまな力を導き出し、つなげることを目的とした。

(イ) 本実践のねらい

今回の学習指導要領改訂¹⁾において「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」「4. 教育内容の主な改善事項」として、「言語能力の確実な育成」と「伝統や文化に関する教育の充実」があげられている。「言語能力の確実な育成」では「発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)」とされ、多くの「情報を正確に理解し適切に表現する力」がもとめられるようになった。また、「伝統や文化に関する教育の充実」では、時期としては幼稚園から、国語のみならず「社会、音楽、保健体育、技術・家庭科」と幅広い教科で「伝統や文化に関する教育」が求められるようになった。平成20年度・21年度の学習指導要領では、小学校から「伝統や文化に関する教育の充実」がもとめられ、現在の中学生は、小学校から「古典」に慣れ親しんでいる環境でもある。

今年度は、中学校3年生の「古典発展学習～「和歌の世界」「おくのほそ道」から『古典作品』紹介へ～」を行った。中学校学習指導要領解説国語編²⁾の第3学年〔知識及び技

能) (3) 我が国の言語文化に関する事項の「ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」と「イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。」ができればなるために、既存の教科書教材「和歌の世界 一万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」「おくのほそ道」を利用して、さらに多くの幅広い作品を取り上げたいと考えた。「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親し」み、さらに「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使う」ためには、同時代の他作品を読むことで、より多くの思索が生まれると考えた。さまざまな作品と出会うことで、自らの意志を持って古典に向き合い、その作品の世界を理解した上で、表現活動に結び付けることができるのではないかと考えた。そのときに、一人で学習を進めるだけでなく、さまざまな書籍や ICT を用いて読み深めていくことや、子ども達同士で調べたこと、知り得たことを発表し合うことで三年間の古典学習における『課題解決学習』のまとめとしてさらに多くの種類の学習の経験を積むこともできると考えた。学校図書館や情報端末などを利用し、多様な情報を得て、整理し発表するために準備する活動も、「GIGA スクール構想」「未来の図書館」の視点から意識した。古典の原典を始めとする書籍とデジタル資料を用いる機会とも捉えた。

学習材の選択については、「古典発展学習」の観点から上代(奈良時代)から近世(江戸時代)の「古典作品」を扱うこととした。明治以降の文語的文章(近代)や中国の古典でもある『漢文』のような作品も考えられるが、今回は日本の「古典作品」に触れることで、作品の歴史的背景や、伝承性などを意識することを意図した。なお、古典単元学習とは、単一教材・テキストを羅列的に学習するのではなく、並行読み、比較読み、などの複数の学習材の提示や読解、また、「読むこと」だけでなく、「書くこと」「話すこと・聞くこと」などさまざまな領域に渡る横断的、総合的な学習と考えている。授業時数のことを考えると7時間をかけることは容易ではないので、「読書単元」や〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」の「ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動」(「パブリックスピーキング」など)や〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」の「ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。」「イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動」(「名言集 中学校生活を振り返って」)など)と関連しながら、単元作りをすることが望ましいと考えた。

イ. 単元の計画 (6時間/全17時間)

(ア) 単元名

古典発展学習 ～「和歌の世界」「おくのほそ道」から『古典作品』紹介へ～

(イ) 単元の目標 (この単元を通して身につけたい力)

- a 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
〔知識および技能〕 (3) イ
- b 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) エ
- c 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(ウ) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 ((3) イ)	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (C (1) エ)	①積極的に古典の種類とその特徴について理解し、今までの学習を生かして考えたことを説明しようとしている。

(エ) 単元計画

次	時	○学習活動 ・予想されるこどもの反応	◇留意点 ◆評価
1	① 本 時 I	○学習の流れを理解し、見通しを持つ。 ○「おくのほそ道」のNHK10min.ボックスを鑑賞し、『古典発展学習』として『古典作品』を紹介する方法について理解する。 ○『古典作品』の今までの学習をふり返り、今後の学習につながる『作品』をさぐる。 ○『古典作品』を紹介したい相手意識を持ち、適切な作品、内容を吟味する。 ○学校図書館・大学図書館・iPad を使って作品を調べ、自分たちが紹介したい作品を決定する。 ☆図書館司書のプレゼンテーション ○デジタルアーカイブの使い方と資料の扱い方について説明を受ける。	[知識・技能] ①長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 ((3) イ) ◆ワークシート 自己評価表
2	2 3 4 ⑤ 本 時 II	○自分たちが紹介したい『古典作品』について学校図書館・大学図書館・iPad を使って調べ学習を行う。 ○学校図書館・大学図書館・iPad を用いて『古典作品』のpptを作成する。 ○自分たちの班のリハーサルを行う。 →ppt・WS (説明用) 作り (個→班)	[思考・判断・表現] ①文章を読んで考えを広げたり、深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (C (1) エ) ◆ワークシート 自己評価表 観察
3	⑥ 本 時 III	○自分たちが紹介したい相手に紹介したい『古典作品』を、iPad を用いてpptで発表する。 ○互いの作品を鑑賞し合い、新たな『古典作品』と出会う。 (個→班⇔全体)	[主体的に学習に取り組む態度] ①積極的に古典の種類とその特徴について理解し、今までの学習を生かして考えたことを説明しようとしている。 ◆ワークシート 自己評価表 観察 映像・音声

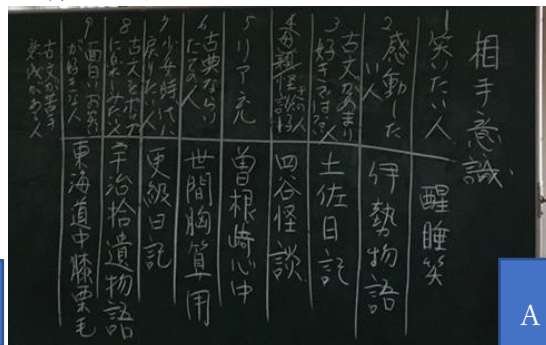
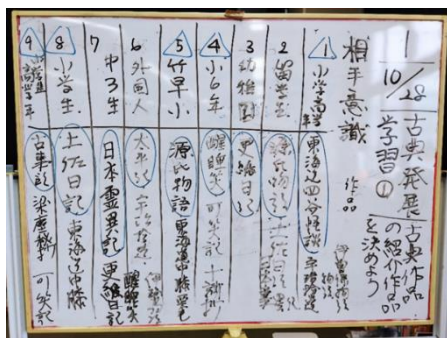
(オ) これまでの単元の経緯

今回の実践では、1年から3年まで継続的に行ってきた『古典学習』のまとめとして、相手意識を持って自らが調べた『古典作品』を紹介する学習を行った。相手意識を持つことで、単なる調べ学習から、目的を持った課題解決学習となること、その作品を『古典作品』にすることで、今までの既習事項を生かし、新たな作品への興味・関心を持つに至ること、そして、これから学習する高等学校での『古典』の導入となること、などを目的とした単元とした。

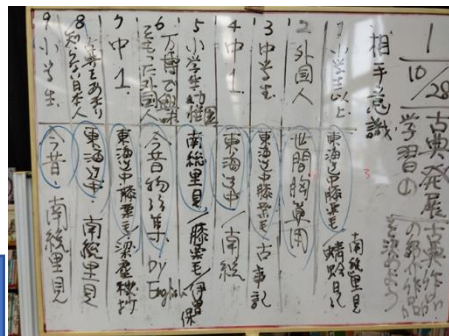
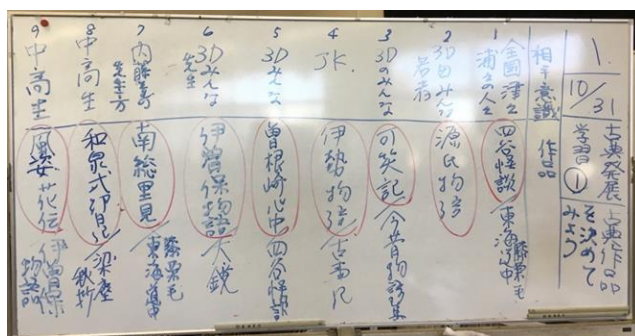
1 時間目 ○紹介する『古典作品』を決めて、紹介したい相手意識を持ち、内容を吟味しよう。

○デジタルアーカイブの使い方と資料の扱い方について説明を受けよう。

第1時では発表する相手については、各クラスで話し合い、それぞれのクラスの思いを大切にしました。また、発表する作品については、今まで学習した作品を除く上代（大和時代）から近世（江戸時代）までの作品とした。選ぶ際には、資料集の古典部分を用い、作品を限定する際には、学校図書館・大学図書館・iPadを用いて、作品に実際にあたりながら慎重に選ばせた。発表形態は、1年から積みあげてきた『話す・聞く』活動の集大成としてICTを駆使した近未来型の授業を想定し、パワーポイント（以下pptと省略）を使うこととした。なお班決めの際は座席で機械的に決める。『好きに、挑む』をテーマにしているのので、自由に作品を選ばせるようにした。同じ作品になっても、お互いに納得する形で相談しながら決めさせた。『古典作品』の紹介のモデルケースとして、NHK10min.ボックス³⁾の「おくのほそ道」を視聴した。10分間の紹介を鑑賞しながら、自分たちは5分間のもので、『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』を必ず入れることとした。（カ）—1 本時の計画 1案 参照



第1時 板書例



2・3・4 時間目 ○紹介したい『古典作品』をpptにまとめる準備を行おう。

第2~4時では、さまざまなPCのサイトから参考になる部分を抜き出し、また学校図書館・大学図書館・iPadで調べながら、各班4枚から5枚のスライドを作成させた。インターネット上や書籍の参考文献を自分たちなりに編集し、取捨選択しながら、限られたスペースでまとめるようにした。『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』を編集するうちに、作品の最も大切な部分を読み取り、理解しようとするようにさせた。また、相手意識があることで、他の班とは違う工夫を施すこともねらった。現在に紹介したい「古典作品」が受け入れられ、『映像』や『音楽』となって紹介されているものもあった。そういった資料を用いることで、より分かりやすい『古典作品』の紹介を作成することも目指した。また、『好きに、挑む』を元に自分たちの好きな作品を担当しているのので、作品を調べることでより一層愛着がわく姿がみられた。

第2時の子どもの様子

↓ ① 学校図書館司書から著作権について説明を受ける



↑ ②資料を共有し作業を進める

↑ ③作品の本文を確認する

第3時の子どもの様子

↓ ④ 1人でデジタルアーカイブを検索 ↓ ⑤ 班で本の資料を共有して検討



⑥ 班のメンバー同士で自分のデジタル端末 (iPad) を用いて検索した内容を共有 ↑

第4時の子どもの様子

↓ ⑦ 班のメンバー同士で作成途中の ppt を確認



⑧ 班の活動で話し合いながら検討 ↑ ↑ ⑨ ppt を上映して確認し議論

5時間目 ○紹介したい『古典作品』を ppt にまとめ、リハーサルをしよう。

オンライン配信授業

授業の流れの確認の後、学年ロビーにある図書や iPad を用いて ppt を作成していた。音楽を iPad で選曲したり、画像、映像を検索したりしながら、話し合いを重ねつつ ppt を共同作業で作成していた。リンクの貼り方を教師に質問したり、図書資料もよく活用したりしており、子ども同士のデジタルの操作の教え合いなども見られた。リハーサルは1回目(⑩)



を行った後、手直しを行い、最終段階でも本を活用しながら確認作業を行っていた。リハーサル2回目では本番を意識した流れを確認する班も多くみられた。

(カ) ー2 本時の計画 2案 参照

6時間目 ○自分たちの調べた『古典作品』を紹介しよう。

第6時 自分たちの調べた『古典作品』を紹介する活動を行った。各クラス作品を紹介したい相手を意識し、単なる調べ学習の発表だけでなく、伝える必然性を生むことで、より詳細で分かりやすい発表を行っていた。



← ⑪ 大学図書館で作成されたデジタルアーカイブの資料を使った様子

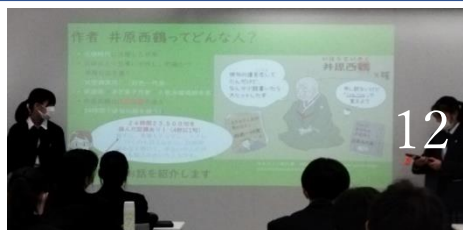
中学校では古典についての興味・関心を一層高めることが目的であり、古典についての知識を、具体的な作品等から切り離して指導するのではなく、実際に古典に触れながら学習させることが必要と考える。

スライドショーについての司書のコメント●『伊勢物語』

画像を選ぶ際、例えば在原業平の肖像一つを見ても、大学や他機関のデジタルアーカイブを比較しながら、よりイメージの伝わるものを採用しており、デジタル資料を上手に活用していました。

⑫ pptの機能を生かし発表を行う様子 →

作者についても触れており、アニメーションなどを用いて理解しやすい発表になるような工夫を行い、発表の時も各個人でデジタル端末を使用することでよりスムーズな発表を行っていた。



← ⑬ 発表を真剣に聞く生徒たちの表情

資料は ppt で Microsoft teams の学年の学習のフォルダに収納されているので手元で見ることにも可能だった。発表の ppt を見ながら真摯に説明に集中している様子も見られた。聞き取りのワークシートも用意し書き込むように指示した。



子どもの古典発展学習を終えての振り返り

- ① 発表をすることを肯定的に捉えていて、そのまま発展学習を前向きに捉えられたもの
- ② 新しい視点を持って発表を聞くことができたもの
- ③ 作品への愛着など、作品への理解が進んだもの
- ④ 調べるときや発表のときにさまざまなものを使ったことがみとれるもの

子どもの振り返り (○数字は上記の視点を含む部分)

作品を読んだときに自分達を感じた「伊勢物語って恋物語だったの?!」という①驚きを伝えられるプレゼンを作ろう。

十七段のドキドキするような恋の駆け引きの様子や、九十一段の哀愁漂う雰囲気味わってもらうために、④朗読の仕方や現代語訳の仕方、イラストの使い方などできる限りこだわって作った。

専門家が読むような辞典から引用したりと、④普段の調べ学習ではできないような体験。

①一人で調べるよりも多くのことを調べられ、他の解釈の仕方を話し合うことで作品に対する考え方も深まった。

他の班の発表も全てが興味深くて、②クイズを作ったり、BGMを効果的に活用。

・現代のわたしたちは楽しめないのではないかと思っていた部分があるが、今回の授業を通して①「古典って面白いかも！」と思うことができた。

③現代に通じている部分も多く、漫画や小説を読むのと同じようなもの。①今度図書館に行き、気になった作品を読んでみよう。

(力) — 1 本時の計画 1案 (1時間目/全6時間)

a. 本時のめあて

・既習事項の古典作品を確認し、NHK10minutes ボックスを参考資料にしなが、他者に紹介する作品を選定し、データベースの利用方法を習得することができる。

b. 本時の展開

○学習活動・子どもの反応	◎指導上の留意点 ☆評価【 】 評価方法() ※資料
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあてと本時の流れについて理解する。 ○ 本時の目標を確認する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○「おくのほそ道」のNHK10min.ボックスを鑑賞し、『古典発展学習』として『古典作品』を紹介する方法について理解する。 ◎古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ(伝えたいこと)』など古典作品について自分なりの考えを持たせて発表させることを確認する。 ○『古典作品』の今までの学習をふり返り、今後の学習につながる『作品』をさぐる。 ○『古典作品』を紹介したい相手意識を持ち、適切な作品、内容を吟味する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○「国語の便覧」・学校図書館・iPadを使って作品を調べ、自分たちが紹介したい作品を決定する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「おくのほそ道」のNHK10min.ボックスを鑑賞し、『古典発展学習』として『古典作品』を紹介する方法について理解させる。 ◎古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ(伝えたいこと)』など古典作品について自分なりの考えを持たせて発表させることを確認する。 ◎『古典作品』の今までの学習をふり返り、今後の学習につながる『作品』をさぐり、自分で紹介する『古典作品』を探させる。 ◎『古典作品』を紹介したい相手意識を持ち、適切な作品、内容を吟味させる。 ◎相手意識を明確にするために、各学級で紹介する対象を決定する。 ◎個人・グループごとに、自分たちが紹介したい作品を決定する。 ・話し合い活動が円滑に進むよう机間指導をし、必要に応じて助言をす

<p>学校図書館司書の授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学図書館より、アーカイブを用いたデジタル資料の扱い方について説明をする。 ○大学図書館のアーカイブと Japan research のアーカイブを用いて資料の検索方法、発表資料への引用の仕方などを学習する ○個別の iPad とメディアセンター内のモニターを併用して情報を確保し、明確に共有する。 <p>☆ジャパンサーチ https://jpsearch.go.jp/ ☆東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/search</p> 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで重ならないように配慮させる。 <p>◎学校図書館司書より大学図書館のアーカイブを用いたデジタル資料の扱い方について説明をうける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書、資料などに用いて、発表資料にも引用することを理解させる。 ・オンラインでの説明になる予定なので、TT でサポートする。 ・iPad とモニターを併用して、情報を確保する。 <p>☆【知識・技能】</p> <p>【①長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ】 (ワークシート) (自己評価表)</p> <p>☆【思考・判断・表現】</p> <p>【①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)】 (ワークシート)(iPad の資料) (モニター) (ppt) (Teams) ※ppt の発表資料</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、活動内容をまとめる。 ○ 本時の取り組みに対し自己評価をする。 ○ 次時の学習予定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時の活動を十分に振り返らせる。 ◎次時が発表の本番であることを確認させる。


(カ) — 2 本時の計画 2案 (5時間目/全6時間)

a. 本時のめあて

・選んだ古典作品と参考資料を読み、『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ(伝えたいこと)』など調べて理解したことに基いて、他者の考えとの交流をもとに、自分たちの考えを再構築し発表に向けて ppt と原稿を作成することができる。

b. 本時の展開

○学習活動・子どもの反応	◎指導上の留意点 ☆評価【 】 評価方法() ※資料
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあてと本時の流れについて理解する。 ○ 本時の目標を確認する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・個人の調べ学習を班で共有する。 ○ 自分たちの班のプレゼンテーションに向けての準備をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』など紹介したいことを発表する準備をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班活動での話し合いや、まとめの方法を理解する。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班で担当する古典作品について、『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』を読み取る。 ○ 『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』各自で違いをみつけ、ワークシートに記入する。 ○ 他者を意識した発表なので、視覚的にもまとめた ppt を用意する。 ○ 口頭で紹介するための練習をする。 ○ 班で、リハーサルを行う。 ○ リハーサル後の班の話し合い活動により、『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』について、自分が気づかなかった事柄をワークシートに追加記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』など古典作品について自分なりの考えを持たせる。 <p>☆【思考・判断・表現】</p> <p>【①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。（C（1）エ）】</p> <p>(ワークシート)(iPadの資料) (ppt)または(ロイロノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が円滑に進むよう机間指導をし、必要に応じて助言をする。 <ul style="list-style-type: none"> ◎古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』を、学級で紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取らせる。 ◎ワークシートの記述が進まない子どもには、個別に指導・助言をする。 ◎古典作品の『作品の概略』『本文』『現代語訳』と、その作品から『現代に生きる私たちへのメッセージ（伝えたいこと）』について自分なりの考えを持てるように助言する。 ◎リハーサルを経て、相手意識を持って伝えたいことが伝わるかどうか、確認させる。 ◎iPadを複数台用いて、リハーサルの様子を動画で撮影し、振り返るように助言する。※pptの発表資料
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、活動内容をまとめる。 ○ 本時の取り組みの自己評価をする。 ○ 次時の学習予定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時の活動をしっかり振り返らせる。 ◎次時が発表の本番だと確認させる。

(4) 成果と課題

②プロジェクト実践(2)について

成果

本実践では以下のような成果が見て取れた。

【成果①】・1人1台端末時代におけるデジタル資料の可能性を再認識

2000年頃から新聞社やテレビ局でデータベース化・アーカイブ提供がはじまった。コロナ前後からは各機関で本格的にアーカイブサービス提供が開始され、全世界に広がり、つながることが可能になった。子供たちにとって、自分だけの端末を自由に使える、つまり、自分の手の中に美術館・博物館・図書館がある状態となった。また、専門機関のデジタルデータを活用することは、図書を正しく使って調べることに通じる。信ぴょう性の乏しい情報や出所の分からないデータの二次利用を防ぎ、正確なメタデータ、精密な画像、明確なライセンス条件のものにあたるのが可能となった。更に、言葉だけでは分かりにくいものが、視覚的に伝えられる事もできるようになった。(一例：東海道の宿場町，五右衛門風呂，平安の装束)それは理解度・興味に直結し，今後，美術など他教科でもデジタル資料を用いた学習を予定しており，さまざまな場面での活用が期待される。

【成果②】・大学図書館との連携

今回の実践は、大学図書館の協力を得られたことが大きかった。所蔵するデジタルコレクションの関連資料に、今回の授業に合わせたタグ付けを依頼することができた。そのことによって、タイトルが違う資料でも、生徒自身の手で確実に探し出せるようになり、大学図書館という世界を知り、上級学校の学びへの興味につながった。他機関との連携で、生徒の好奇心も、教員の授業の幅も広がっていくことになった。

課題

【課題①】 メディアリテラシーを身につけることの難しさ

学習で使える資料・情報源の判断や出典の書き方、著作権など、事前のレクチャーや手直し時の再指導が大変手間がかかった。それでも無意識の著作権侵害はなくなることはなかった。このことで、学年・教科を超えて繰り返し伝え続けることの必要性を痛感した。

【課題②】 生徒の作品に使われている情報の著作権を確認することの難しさ

著作権侵害はないか、どこまでが自身の考えか、ということを取り返し授業中で話をしたが、徹底することは難しかった。著作権法第35条により認められている教育現場での“例外”はあるが、保護者や外部研究会への公開、校内サーバへの蓄積などはこの範囲ではないので、全てをチェックしきれぬか?という心配は常にあった。学習成果の公開や、成果物をデジタルアーカイブで残していくことへのハードルは高いと考えた。

四、今に向かっている、3年（ワ）第一行）第二項（著作権）

中学国語3年 自己評価表 16

7	6	5	4	3	2	1	評
読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き
（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）
（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）
（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）
（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）
（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）
（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）
（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）
（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）
（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）
（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）
（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）
（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）
（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）
（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）
（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）
（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）
（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）

WS (自己評価表) ↑

2	9	8	7	6	5	4	3	1	評
読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き	読書が大好き
（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）	（内容）
（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）	（感想）
（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）	（意見）
（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）
（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）
（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）
（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）
（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）	（学習）
（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）	（発表）
（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）	（対話）
（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）	（まとめ）
（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）	（振り返り）

WS (聞き取りメモ) →

協議会・指導講評から

協議会では以下のような話題が出ていた。

- ・大学図書館の資料：公立校が使う場合どのくらい使えるのか？→公立校でも十分に活用可能。
 - ・発展学習の中での、生徒への動機づけは？→「デジタルで千年前の作品をよみがえらせる」
 - ・映像音声の効果について国語科としてはどう扱うのか？→全教科で行う必要性。
 - ・現在に作品が享受され現在の作品になっているが、子どもたちはすでに気づいていたのか、先生が提示したのか？→アニメ化、歌舞伎化を見だしつつも、作品に戻るような言葉がけ。
 - ・作品理解よりも表現の方法に意識が向いていたがどの程度の作品理解があればよいのか？→古典のかけらが現代の社会に散らばっていることや時代、分野、作者、内容を理解すればよい。
 - ・3回目の古典発展学習だが、今回の手ごたえはどうだったか？→以前の分業の切り貼り作業から今回は同時に同じ資料に入った。理解・興味、広がりや深まりは圧倒的によくなった。
- 中村先生からの指導講評では、以下のようなお言葉を頂戴した。

・古典のとっつきにくさを、デジタルにすることで乗り越えられていること。…子どもの感想からそれがよくわかる。資料が豊富にあることで得意な子も苦手な子も、個別最適化して資料に当たることができた。

・言語文化としての古典。…その作品がどういうつながりがあるか今にたどり着いているのか、期せずしてそこが学べた点もよかった。「ちはやふる」や歌舞伎など。文化が多様にかかわりあっていることに戯れながら、気づけたのではないかと。言語文化教育のなかでカリキュラム化されていくことも必要。探究のなかでの教師の役割は？見守るだけではない、正当な戯れ方への導き、どう声をかけをするべきか、個別化した指導が必要。音楽や映像にこだわっていることなども、それが本当に今必要な見極めながら、その場その場でひとりずつ声掛けをする必要。司書との役割分担、機械操作などへの人的配置などもすることで、よりよい個別指導ができる。言語文化としての古典学習の大事な機会となったのではないかと。

今後の古典学習の新たな視点として、子どもとともに授業づくりを行っていきたい。

(文責：菊地圭子)

(引用文献)

1) トップ > 教育 > 小学校, 中学校, 高等学校 > 学習指導要領「生きる力」 > 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領 (本文, 解説) > 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領 (本文, 解説) > 改訂のポイント > 幼稚園教育要領, 小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント (PDF:264KB) PDF

https://www.mext.go.jp/content/1421692_1.pdf 最終閲覧 2022/08/20

「言語能力の確実な育成」・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成 (小中：国語)

「伝統や文化に関する教育の充実」・正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと (幼稚園)・古典など我が国の言語文化 (小中：国語)、県内の主な文化財や年中行事の理解 (小：社会)、我が国や郷土の音楽、和楽器 (小中：音楽)、武道 (中：保健体育)、和食や和服 (小：家庭、中：技術・家庭) などの指導の充実

2) 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 国語編』4) (平成 29 年 7 月)文部科学省

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf

最終閲覧 2022/08/20

3) NHK for School NHK10min.ボックス『古文・漢文』[おくのほそ道] (松尾芭蕉)

資料1 相手意識〔今年度〕

- A 笑いたい人, 感動したい人, 古文があまり好きではない人, 保護者, 怪談好きの人, など
- B 竹早小学校の小学生を対象に
- C 小学生, 中学生だけでなく古典をあまり知らない日本人や, 外国人にも対象に
- D 中学生, 高校生を対象に

資料2 発表に選んだ作品一覧〔今年度〕

A-1	江戸	醒睡笑	安楽庵策伝
2	平安	伊勢物語	作者未詳
3	平安	土佐日記	紀貫之
4	江戸	四谷怪談	鶴屋南北
5	江戸	曾根崎心中	近松門左衛門
6	江戸	世間胸算用	井原西鶴
7	平安	更級日記	菅原孝標女
8	鎌倉	宇治拾遺物語	作者不詳
9	江戸	東海道中膝栗毛	十返舎一九
B-1	江戸	東海道四谷怪談	鶴屋南北
2	平安	源氏物語	紫式部
3	平安	更級日記	菅原孝標女
4	江戸	醒睡笑	安楽庵策伝
5	平安	源氏物語	紫式部
6	鎌倉	太平記	不明
7	平安	日本霊異記	景戒
8	平安	土佐日記	紀貫之
9	奈良	古事記	太安万侶
C-1	江戸	東海道中膝栗毛	十返舎一九
2	江戸	世間胸算用	萬屋清兵衛, 伊丹屋太郎右衛門
3	江戸	東海道中膝栗毛	十返舎一九
4	江戸	東海道四谷怪談	鶴屋南北
5	江戸	南総里見八犬伝	滝沢馬琴
6	平安	今昔物語集	不明
7	江戸	東海道中膝栗毛	十返舎一九
8	江戸	東海道四谷怪談	鶴屋南北
9	平安	今昔物語集	不明
D-1	江戸	東海道中膝栗毛	十返舎一九
2	平安	源氏物語	紫式部
3	江戸	可笑記	如備子
4	平安	伊勢物語	不明
5	江戸	曾根崎心中	近松門左衛門

6	江戸	伊曾保物語	訳者不明
7	江戸	南総里見八犬伝	滝沢馬琴
8	平安	和泉式部日記	和泉式部
9	室町	風姿花伝	世阿弥

古典発展学習 ～「和歌の世界」「おくのほそ道」から『古典作品』紹介へ～授業実践計画

			A	B	C	D
1	『古典発展学習』1	作品に出会う	11/8(火)④	10/28(金)①	10/28(金)②	10/31(月)③
2	『古典発展学習』2	作品を知る1	11/9(水)④	10/31(月)②	10/31(月)①	11/8(火)①
3	『古典発展学習』3	作品を知る2	11/10(木)④	11/8(火)②	11/8(火)③	11/9(水)③
4	『古典発展学習』4	作品を知る3	11/14(月)⑥	11/10(木)⑤	11/10(木)②	11/14(月)④
5	『古典発展学習』5	作品を知る4	11/15(火)④	11/11(金)①	11/11(金)②	11/15(月)①
6	『古典発展学習』6	作品を紹介する1	11/16(木)④	11/14(月)②	11/14(月)①	11/16(水)③